

令和6年度

# 事業報告書

「誠実で信頼される人に」  
*Become a Sincere and Reliable Person*



学校法人 愛知享栄学園

# 目次 Contents

学校法人愛知享栄学園 事業報告書

はじめに	・・・・・・・・	1
建学の精神	・・・・・・・・	2

## I. 学校法人の概要

---

沿革	・・・・・・・・	3
役員・評議員	・・・・・・・・	4
生徒・園児数・教職員数	・・・・・・・・	6

## II. 事業の概要

---

学校法人	・・・・・・・・	7
享栄高等学校	・・・・・・・・	7
栄徳高等学校	・・・・・・・・	10
享栄幼稚園	・・・・・・・・	13

## III. 財務の概要

---

決算の概要	・・・・・・・・	16
資金収支計算書	・・・・・・・・	17
事業活動収支計算書	・・・・・・・・	19
貸借対照表	・・・・・・・・	21
有価証券の状況	・・・・・・・・	22
財産目録・借入金明細表	・・・・・・・・	23
財務比率	・・・・・・・・	24
次年度に向けて	・・・・・・・・	25

## はじめに

学校法人愛知享栄学園は、平成26(2014)年に享栄高等学校、栄徳高等学校、享栄幼稚園の2校1園で組織する学園として法人分離し、新たに誕生しました。

建学の精神である「誠実で信頼される人に」の理念のもと、「スチューデントファースト」の考えに基づき、社会・地域から信頼される人材育成を目指し、役員及び享職員一丸となって取り組んでおります。

高等学校無償化及び幼児保育無償化に結び付く政策や補助金も追い風となり、お陰様でたくさんのお生徒・園児にご縁をいただき、誠に感謝いたします。一方で、これから迫りくる少子化、長引く物価高騰、悪化する環境問題など、今後の日本を背負う若人たちに、どのように向き合い、寄り添うことが出来るかが大変重要であると認識しております。

学園経営においては、ガバナンスの強化、透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取り組み等が求められています。

生徒・園児が活気に溢れ、安心感と満足感を充たすとともに、教職員が誇りを持てるライフスタイル実現に向け、これからも地道に歩んでまいります。

以上

令和7年4月1日

学校法人愛知享栄学園

理事長 松原 武久

## 建学の精神

# 「誠実で信頼される人に」

*Become a Sincere and Reliable Person*

愛知享栄学園は、平成26年4月に享栄学園の建学の精神を受け継ぎ、更なる発展をめざし分離独立をしました。

享栄学園は、創立者の堀榮二が、米国で修得した実社会に役立つ教育の実践を目指し「英習字簿記学会」大正2(1913)年として設立し、その後、その精神は引き継がれ、享栄学園の名の基となった「有陰徳者必享其栄」（陰徳ある者は、必ずその栄を享く）、誠実さを基にして生徒は教師を信頼し、教師はまた生徒を信頼することのできる教育の場にして、ここで培った信頼感を社会に広げたいと願った「誠実で信頼される人に」の建学の精神に則り、地域に根ざす学園を目指しています。



学園創立者 堀 榮二

<名 称>  学校法人愛知享栄学園

<法人設立> 平成26年4月1日

<設置学校>  享栄高等学校 〒467-8626 愛知県名古屋市長久手市瑞穂区汐路町1-26  
 栄徳高等学校 〒480-1103 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-32  
 享栄幼稚園 〒467-0017 愛知県名古屋市長久手市瑞穂区東栄町2-4



享栄高等学校



栄徳高等学校



享栄幼稚園

# I. 学校法人の概要

## 1. 沿革

大正 2年	6月	英習字簿記学会として名古屋市中区南呉服町に発足
大正 4年	4月	阪本市長命名の「享栄学園」認可（KYOEI BUSINESS COLLEGESと称す
大正 7年	10月	実業学校令による乙種認可校となり、享栄貿易学校と校名変更
大正10年	12月	甲種商業学校として認可される
大正14年	4月	実業学校令による甲種認可校（5年）に昇格、享栄商業学校に校名変更
大正14年	9月	名古屋市瑞穂区汐路町の現校舎位置に移転、鶴舞公園前に享栄商業タイピスト学校独立
昭和19年	3月	財団法人享栄学園を設立、享栄女子商業学校に校名変更
昭和23年	4月	学制改革により享栄商業高等学校、享栄中学校として発足
昭和26年	3月	学校法人享栄学園となる
昭和29年	4月	享栄幼稚園設立
昭和37年	4月	享栄商業高等学校に工業課程を開設
昭和38年	4月	鈴鹿高等学校を三重県鈴鹿市に、普通科・商業科開校
昭和40年	3月	享栄中学校廃校
昭和41年	4月	鈴鹿短期大学を三重県鈴鹿市に開校家政学科
昭和42年	10月	享栄商業高等学校、校名を享栄高等学校と変更
昭和43年	4月	享栄高等学校に普通科開設
昭和51年	4月	享栄商業タイピスト学校を享栄タイピスト専門学校に校名を変更し、専門課程・高等課程・一般課程を設置
昭和58年	4月	享栄高等学校栄徳分校を愛知県長久手町に普通科開校
昭和60年	4月	享栄高等学校栄徳分校が独立、栄徳高等学校として普通科を開校
昭和60年	4月	享栄タイピスト専門学校を専門学校享栄ビジネスカレッジと校名変更
昭和61年	4月	鈴鹿中学校を三重県鈴鹿市に開校
平成 2年	3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ商業実務一般課程廃止
平成 5年	12月	鈴鹿国際大学国際学部国際関係学科設置認可
平成 9年	12月	鈴鹿国際大学大学院国際学研究所及び国際学部国際文化学科認可
平成12年	10月	鈴鹿国際大学国際学部観光学科設置認可 享栄高等学校 硬式野球部瀬戸グラウンド竣工
平成13年	8月	鈴鹿国際大学国際学部英米語学科設置認可
平成17年	3月	享栄高等学校通信制課程廃止認可
平成17年	3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ商業実務高等課程廃止認可
平成22年	3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ廃校
平成24年	4月	鈴鹿短期大学が鈴鹿国際大学郡山キャンパスへ移転。
平成25年	4月	栄徳高等学校 創立30周年
	9月	享栄高等学校 創立100周年式典
	11月	学校法人享栄学園 創立100周年式典
平成26年	3月	3法人（享栄学園、愛知享栄学園、鈴鹿享栄学園）に分離認可
	4月	<b>学校法人愛知享栄学園設立</b>
	12月	享栄幼稚園 創立60周年記念音楽会
平成27年	3月	愛知享栄学園研修棟完成
平成28年	3月	栄徳高等学校西館完成
平成28年	9月	享栄高等学校新特進棟完成
平成29年	3月	享栄高等学校北棟完成
	3月	栄徳高等学校西館第二館完成
平成30年	3月	享栄高等学校硬式野球部瀬戸グラウンド屋内練習場完成
	3月	栄徳高等学校新駐車場完成
平成31年	3月	享栄幼稚園園舎完成
令和元年	9月	享栄高等学校南館完成
令和 2年	6月	栄徳高等学校グラウンド造成工事完成
令和 4年	4月	栄徳高等学校合宿所完成
令和 5年	4月	栄徳高等学校創立40周年
	6月	学校法人愛知享栄学園 創立110周年式典
令和 6年	12月	享栄幼稚園 創立70周年記念音楽会

## 2. 役員

令和7年3月31日現在

定数 理事5～9名、監事2名

現員 理事8名、監事2名

	氏名	備考
理事長	松原 武久	
副理事長	伊神 勝彦	
常務理事	依田 佳子	
常務理事	尼子 理志	享栄高等学校校長
理事	三好 博輝	栄徳高等学校校長
理事	伊藤 公治郎	学外理事
理事	原 隆二	学外理事
理事	頼富 祐斗	学外理事

	氏名
監事	浅野 寿美
監事	蜂須賀 太郎

※私立学校法により、学校法人の役員は、理事及び監事とし、代表権は、理事長にあると定められている。

また、同法で、「学校法人に、理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」と定められており、理事会は、学校法人の決議機関となる。

※監事は、同法により、その職務を学校法人の業務及び財産の状況を監査することと定められ、理事会に出席し意見を述べ、監査報告書を作成し、理事会・評議員会に提出します。監事の選出に当たっては、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないとし、監査の公正を保っている。

## 3. 評議員

令和7年3月31日現在

定数 11～19名

現員 17名

伊神 勝彦	依田 佳子	尼子 理志	伊藤 公治郎
原 隆二	三好 博輝	奥村 文洋	浅井 富士雄
石原 卓児	佐々木 恒樹	岩月 宏之	遠藤 隆一郎
山田 和弘	鈴木 孝夫	山田 憲彦	熊田 清文
児玉 眞由美			

※評議員会は、学校法人の重要事項（予算、借入金、基本財産の処分、事業計画、寄附行為の変更等）について、理事長から意見を求められる諮問機関となる。

## ・役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当学園は、理事、監事、評議員を被保険者として、会社法430条の3に規程する役員等賠償責任保険契約を締結しています。

保険料は特約部分を含め学園が全額負担しており、被保険者の実質的な保険料負担はありません。

当該保険契約では、被保険者である理事等がその職務の執行に関し責任を負うこと、又は、当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害について補填することとされています。但し、法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害は補填されないなど、一定の免責事由があります。

以上

#### 4. 生徒・園児数

令和6年5月1日現在

設置する学校	開校年度	学部・学科等	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
享栄高等学校	S23	全日制課程	520	1,560	1,498	
栄徳高等学校	S60	全日制課程	380	1,140	1,314	
享栄幼稚園	S29		69	209	210	
合 計			969	2,909	3,022	

#### 5. 教職員数

令和6年5月1日現在

部門	教員		職員		常勤計	非常勤計	合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤			
享栄高等学校	91	32	15	4	106	36	142
栄徳高等学校	63	37	12	2	75	39	114
享栄幼稚園	16	1	1	1	17	2	19
法人事務局			4	2	4	2	6
合 計	170	70	32	9	202	79	281

## II. 事業の概要

### 1. 学校法人

享栄高等学校、栄徳高等学校、享栄幼稚園の2校1園が、今後安定的に存続していくため、それぞれ目指すべき目標を明確化し、その実現に向かい具体策を検討・実施した。

比率名	目標値	結果		R5 愛知県
事業活動収支差額比率	△8.0% 以上	△3.4%	○	1.2%
人件費比率	81.0% 未満	80.3%	○	71.3%
人件費依存率	178.0% 未満	179.0%	×	134%
管理経費比率	8.0% 未満	6.3%	○	5.1%
基本金組入後収支比率	115.0% 未満	107.6%	○	101.4%

昨年度より、目標値に対する達成度は向上しているが（昨年度は全項目が目標に達せず）愛知県の昨年度平均との隔たりが大きいので、中期財務計画の策定により、経営基盤の確立を行うとともに財務改善策の実施により財務の健全化を図る。

### 2. 享栄高等学校

#### 1. 教育事業

##### (1) 教育充実のための取り組み

高校生活全般において年度当初の予定通り円滑に教育活動を進めることのできた1年であった。また、大切な思い出となる修学旅行・球技大会・文化祭・体育祭・その他鑑賞行事などの諸行事を全て行えたことは学校全体に大きな活気を与えた。

I C T教育の推進も軌道にのり、I C T機器を用いた「分かりやすい授業」の展開と生徒の授業に取り組む姿勢も確立している。

授業に加えて進学補習、個別指導を実施し、普通科を中心とした進学実績としては大学193名（前年度+26）、短大8名（前年度-5）、専門学校124名（前年度-21）の合計325名（前年度±0）が進学し、亜細亜大学、順天堂大学、日本体育大学、同志社大学、龍谷大学、南山大学、名城大学、中京大学など県内外の大学に合格した。

社会に適応できる人材の育成を踏まえ各種検定に向けての補習実習及び個別指導を行った商業科・機械科を中心に、就職実績としてはトヨタ自動車㈱、豊田自動織機㈱、トヨタ車体㈱、愛知製鋼㈱、日本製鉄㈱、デンソーエレクトロニクス㈱、名古屋鉄道㈱、東急ホテル㈱、日本車輛製造㈱、などのトヨタ系、その他優良企業への就職内定を得た。

商業科では、I Tパスポート試験をはじめMOS検定、CGクリエイター検定、ビジネス文書

実務検定ビジネス文書部門1級、表計算検定1級、プレゼンテーション作成検定1級他、多くの資格検定試験に合格させることができた。県職業教育技術顕彰は98名（科の47.1%）が該当し、日本情報処理検定協会委員長賞（同協会主催検定3種目1級合格）は15名（前年度14名）、同会長賞（同5種目1級合格）は2名（初）であった。更には難易度の高いITパスポート試験の上級試験である基本情報技術者試験（全国の商業科高校の受験合格率29.9%）に1名合格した。

機械科では、社会に役立つ技術と知識の向上を図るために国家資格である技能検定合格に向けて取り組んだ。溶接競技の全国大会出場を目指すための取組にも注力した。ジュニアマイスター顕彰（ゴールド13名、シルバー21名、ブロンズ16名、受領率49.5%（前年度53.8%））49名の取得者が出た。更にはゴールドの中から特別表彰が4名出た。県職業教育技術顕彰は98名（科の95.1%（前年度86.8%））が該当した。「空飛ぶ車椅子ボランティア」「堀川エコロボット」等、SDGsを意識した社会貢献活動においても継続して実施した。

普通科CPコース1・2年生では、年間を通じて「総合的な学習・探究」に取り組んだ。生徒自らが課題を設定し、調査・情報の収集、整理、分析し、3月には全員がポスターセッションまで行った。また、前年度の「探究」をまとめ、研究紀要を作成した。

懸案となっているカリキュラムについても、普通科を中心として改編の検討を進めている。

## （2）自己点検と評価

年間を通してICT教育の研修、実践を積み重ねるとともに、年間5回の公開研究授業週間では全教員が公開授業を実施し意見交換を行った。また、定期試験の午後等には、講師を招いて全員での研修会を実施した。

## （3）学習支援の推進

ここ数年の生徒の資格検定取得の意欲は高く、自己の希望する進路実現に向けて補習授業・検定補習を望む生徒にその支援を行った。また、学習面においては授業目標に到達できていない生徒への補充授業を実施し、学習内容の取りこぼしのないよう指導した。

## （4）教員のレベルの向上

継続的にICT教育への取り組みと「分かりやすい授業」の実践について研修し、教師間での学び合いが活発に行われている。初任者研修Ⅰ～Ⅲについては、今年度該当者がなく実施しなかった。

## 2. 生徒支援事業

### （1）生活の支援

相談室では、専属のカウンセラー（臨床心理士）2名による生徒のカウンセリングを行い、生徒だけではなくその保護者とも面談しフォローに取り組んだ。また生徒と対峙する立場としての教員には専門家を招いて、「要支援生徒への対応」「発達障害生徒理解」「いじめ防止」等の講習会を行った。全生徒対象に「生命の大切さ」「危機管理（SNS、薬物被害、交通安全）」、卒業年度の3年生対象に「男女共同参画社会への理解と取組」の一環として講演会を開き、高校生活及び実社会への心構えを新たに作る機会を設けた。

### （2）保護者との協力関係の構築

夏と冬の2回の保護者会では、希望する保護者に対してはオンラインでの面談を行うことで、学校と家庭それぞれの生徒の様子の情報交換ができた。オンライン面談は全ての家庭との面談を

容易にした。

### 3. 教育環境の整備

公衆衛生の向上として、コロナ対策以来で行ってきた手指消毒・換気などを引き続き励行した。教室空調機器の取り換え事業は一巡し、新校舎建替え時より全普通教室の空調機器が一新されているので安定した教育環境が確保されている。保健厚生課と生徒会美化委員による清掃点検では、指摘事項とその後の取り組み状況を確認することで、日々の清掃美化意識の向上を図った。また、各所に掲示した生徒作成の美化啓発ポスターもその一助となっている。

空き教室を利用し、昨年開設の自習室同様、習熟度別授業やグループ学習での使用を目的とした多目的室を設置した。

### 4. 地域連携・貢献事業

地域の方々にも企画・参加していただく「土曜セミナー」は年間4回実施し、近隣の地域清掃活動の企画も継続して実施した。2月の開催時には、ホンダ系ディーラーの協力でレース仕様のスポーツカーやバイクの展示と説明があり、市販車輻とのエンジン音の違い等に生徒が大いに興味を持ち、モータースポーツの魅力とともに安全走行の重要性についても学ぶ機会となり好評であった。

吹奏楽部は名古屋市内外の様々な演奏会に出演し、演奏披露する機会をいただいた。生徒会生徒中心とした安全の啓発活動も年間を通じて実施し、14年間継続してきた災害募金活動についても実施した。

9月末～10月初の享栄祭（文化祭、体育祭）は、保護者を対象とした一般公開を実施、近隣住民の皆さんとの交流機会としてきた「青空市場」では、今年から売り上げの一部の子ども食堂へ寄附も目的とし、賛同協力をいただくとともに生徒たちの元気な姿を見ていただいた。

また、10月には「名古屋まつり」でのボランティア体験の機会を得て2日間にわたり生徒会・部活動生徒を中心に参加できた。生徒は大きなイベントの運営に携わることができ、貴重な時間を過ごすことができた。

### 5. 生徒募集・入試に係る事業

#### (1) 生徒募集活動の強化

6月に高校入試説明会、夏期休業中の2回の体験入学会と10月下旬からの6回の学校説明会を実施するとともに、学校紹介ビデオを作成し参加できない中学生にも学校の様子を届けた。また、2月の公立入試前に一般入試合格前納金納入保護者対象説明会を実施し、その結果前述の説明会に参加していなかった68名の保護者が出席、うち18名が公立の試験前に本校に後納金を納めた。公立への進学可能な評定の入学者も含め、一般入試を3教科から5教科と増やし面接を取りやめたことで戻り率は増加した。推薦入学者数も増加し、令和7年度は560名の入学者となった。

#### (2) 関係各所との連携

県下の中学校を訪問して、情宣活動を行った。また、中学校の進路説明会、教員を対象にした地区説明会、私塾訪問を実施した。更には、研究公開授業週間には私塾関係者を招き、授業の様子等の本校の理解に努めた。

## 6. 進路支援事業

「進路の手引き」を製作配布し、進路選択や進路指導の一助として活用した。

県内私立大学の数校を進学強化校と位置づけ、対策ガイダンスや大学見学を実施した。各校の情報を得るとともに指定校推薦卒の獲得やその増加を図った。

進学、就職試験において重要な面接試験対策として指導期間を増やし学年と進路指導課の連携を強めた。

将来の進路選択に際して必要な職業観や勤労観を養うことを目的とした、2年生対象のインターシップを48事業所の協力をいただき、230名の生徒が参加することができた。

## 7. その他

硬式野球部の瀬戸グラウンド及び豊田市八草グラウンドでは、対外試合に出かけてグラウンドを使用しない土日を、近隣の少年野球チームに無償で貸与し地元の青少年育成の一助になった。

# 3. 栄徳高等学校

---

### (1) 教育充実のための取り組み

校訓である「誠実で信頼される人に」を具現化させるために「栄徳五訓」については、毎朝のSTや様々な学校行事で唱和させた。全校朝礼、始業式・終業式等の全校集会を通じて、「栄徳生」としての意識づけや「集団に寄与する態度」等、人格形成や豊かな人間性の育成に努めた。

### (2) 自己点検と評価

P D C Aサイクルを機能させるため、校務分掌組織ごとに経営案を作成し、明確な目標をもって業務を遂行した。年度末に具体的な取組とその評価を各分掌で討議し、年度末反省として次年度に向けての課題検討をした。また、学年末考査期間には教員一人ひとりと校長が面談を行い、本年度の反省と次年度への抱負を話し合った。

校内においては引き続き将来構想をはかるグラウンドデザイン委員会を実施し、将来に向けての検討を活発に行った。

授業参観、進路説明会、学年保護者会、保護者会等については多くの保護者に参加していただいた。また、生徒・保護者・教職員を対象とした「学校アンケート調査」を実施し、その結果を分掌ごとに検討・反省を実施し、次年度に向けてのP D C Aサイクルに繋げた。

### (3) 学習支援の推進

各コース・クラスの特性に合わせた補習・講座についても計画的に取り組むことができた。学年末には、単位取得が難しいと思われる生徒に対しては、教科担任が個別指導を行い、生徒のサポートをした。

Super文理・選抜文理は、長期休業中に「特別補習」・「学習合宿」を実施、Super文理は校内合宿も実施し、学力向上に努めた。3年Super文理・選抜文理は2学期期末考査終了後「特別時間割」を実施し、大学入学共通テストや二次試験に対応した。また、反省会・検討会を実施するなど担任、教科担任の連携により、本年度は国公立大学38名の合格者を出すことができた。また、スタディサプリを効果的に利用するなどICTの活用を進めた。

本年度の進学実績

《国公立大学38名（昨年47名）》 文部省管轄外大学校を含む

愛知教育大学3名 名古屋工業大学2名 愛知県立大学4名 名古屋市立大学1名 岐阜大学1名 三重大学2名 静岡大学1名 広島大学1名 大阪公立大学2名 など

《県内外私立大学630名（昨年576名）》 《私立大学》

南山大学38名 愛知大学20名 中京大学49名 名城大学48名 早稲田大学1名 慶応義塾大学1名 上智大学1名 東京理科大学3名 中央大学1名 法政大学1名 関西大学1名 関西学院大学2名 立命館大学8名 など

#### （4）教育のレベルの向上

昨年同様全教員が参観できる研究授業期間を前期・後期と2回設け、教科会議で授業の質の向上、指導力アップのための検討をした。進路指導部からは、外部模試の結果の推移を教科会議などで報告し、教員の反省と今後への課題を確認した。

新人教員を対象に、校内において初任者研修を実施し、資質向上を図った。

## 2. 生徒支援事業

### （1）生活の支援

交通安全指導の徹底を図るため、愛知県警察等の外部から講師を招き交通安全講話を継続して実施した。また、SNSに関する問題行動が特別指導の多くを占めつつある現状を鑑み、民間の通信会社（NTT）から特別講師による「サイバー犯罪防止講話」を開催し、正しい端末使用の徹底を図った。

タイムリーに生活指導部や学年による学年集会を実施し、保護者に対しても「生活指導だより」等で注意・啓発をおこなった。さらに、男女に分かれての性犯罪防止講話を行い異性に対する性意識の違いを理解させた。その他、薬物に対する危険性を理解させるため薬物乱用防止講話も実施した。また、「いじめ」の防止のため、「いじめ防止対策委員会」を開き、いじめの早期発見に努め、早い対応をするよう心掛けた。また、2年生に対しては外部から講師を招いて「いのちの大切さ」を学ぶ自殺防止講話を実施した。

スクールカウンセラーを配置して気兼ねなく相談できる環境を整え、生徒指導においてもカウンセラーに助言を仰ぐ場面が増えた。

### （2）保護者の方々との協力関係の構築

各PTA活動は、役員会、実行委員会、専門委員会、生活指導委員会、部活動委員会、広報委員会等の活動においても保護者の参加をいただき、協力関係の構築を図ることができた。

## 3. 教育環境の整備

建物自体の老朽化が年々進んでおり、補修箇所が毎年増加しており、校舎改築委員会を立ち上げ、環境整備について検討を行った。その結果、令和7年度に体育館のエアコンの設置及びフロアの改修、全教室にプロジェクターを設置することが決定された。

専任教員は全員にサーフェスが貸与され、授業、会議、連絡などICT化が進んでいる。ただ、非常勤講師全員に行き渡らない課題があったため、令和7年度には非常勤講師全員にノートパソコン

コンを貸与する予定。（準備完了済）

#### 4. 地域連携・貢献事業

本年度も地域の要請に基づく学校開放（グラウンド、体育館）を行い、地域貢献に取り組んだ。特に硬式野球部・ラグビー部、ソフト部など中学生所属のクラブチームや学校を積極的に受け入れ選手獲得に繋がった。また、長久手市社会福祉協議会と連携し、文化祭で社会福祉実践教室を開催し、福祉貢献を学んだ。開校2年目より実施しているクリーンアップキャンペーン（清掃奉仕活動）は、長久手市内を中心に日頃お世話になっている場所の清掃を行った。

トヨタ博物館を利用した社会見学を実施した。

近隣の愛知県立芸術大学との高大連携事業については日程調整が折り合わず、実施できなかったが、継続して実施を検討する予定である。

#### 5. 生徒募集・入試に係る事業

##### （1）生徒募集活動の強化

学校見学・説明会の年間参加者数は2252名（昨年度2043名）で、昨年に比べると200名程度増加した。特に秋の学校見学説明会は記録の残っている過去8年間で最高となった。担当の教員による具体的で根拠ある説明は参加者の理解度と満足度を上げている。校内での説明会以外にも、地域と対象者（中学生、保護者、中学教員、学習塾講師）の特性を踏まえた情報宣伝活動を行った。動画制作も継続し、各行事のダイジェスト動画などを説明会等で放映することにより、共感を得るツールとして効果を発揮した。

基準の引き上げにより、入学者減を覚悟していたが、最終的には学則定員を上回る416名の入学者を迎える結果となった。反面、競合校の合否結果に左右されている部分も多分にあるので、「栄徳で学びたい」という生徒を増やす工夫を今後模索する必要がある。

##### （2）関係各所との連携

志願者を輩出するための中学校、塾からの後押しは不可欠であり中学校主催説明会への参加は33校（昨年29校）と増加した。出願者数に必ず結びつくため、引き続き積極的に働きかけたい。塾主催説明会にも大手のみならず、積極的に参加・訪問し、在校生の学校での様子や卒業生の進学先等を伝えるなど、本校のきめ細やかな指導の理解が深まるよう努めた。また、1年生全員が中学校に宛てに作成した近況報告のメッセージカードを、入試広報職員が中学校訪問時に持参し、入学後の本校での様子を恩師に報告した。中学校現場からは好評であった。

また、年度始めに近隣の中学校の校長先生を中心にご挨拶に伺い、進路指導主事とともに良好な関係づくりに努めた。

#### 6. 進路支援事業

本校の「進路カリキュラム」に則り、国公立大学35名の目標達成に向けて取り組み、今年度は何とか目標を達成することができた。インターンシップ活動は、前年ほど数字が伸びなかった。組織としての対応が今後の課題である。Super文理、選抜文理補習も学年末には特別時間割を組んで対応したが、今後は進学クラスの生徒が一般入試で対応できるよう、最後まで生徒に寄り添う学習指導を続けていきたい。

## 7. その他

令和6年度はいわゆる「栄徳イノベーション2」の完成年度であるが、数々の問題点などが見えてきた。また、教職員の「働き方改革」の視点からの労働生産性向上に関しても未だ十分とは言えない部分が多々ある。今までに出てきた課題をしっかりと整理し、常に「次へ」の意識を持ちながら、全職員が目標に向け努力を積み重ねたい。

## 4. 享栄幼稚園

### 1. 教育事業

昨年度まで感染症対策で享栄高校の体育館をお借りして行っていた入園式は、久しぶりに幼稚園遊戯室で行い、入園児をお迎えし自分の教室で始まりを迎えることができた。

夏の阿智村園外保育も感染症流行以来久しぶりに宿泊で行い、大自然の中、魚とりやキャンプファイヤー、花火観賞などを楽しむことが出来た。運動会も予定どおり実施でき、子どもたちの掛け声が汐路学区に響き渡った。

70周年行事として、12月の音楽会もNiterra日本特殊陶業市民会館で沢山の来賓の方にもお越しいただき、盛大に行うことが出来た。また、3月の卒園式も入園式同様に幼稚園の遊戯室で挙行し、慣れ親しんだ園舎から子どもたちを元気よく送り出すことができた。

#### (1) 教育充実のための取り組み

幼稚園教育要領に沿い、5つの力として集中力、理解力、表現力、コミュニケーション力、体力を育てる年間指導計画を定め、子ども一人ひとりに寄り添い、気持ちを受け止め、集団生活の中での目標にして力を入れてきた。子どもたちにとって、日々の経験が成長に大きな影響をもつため、一人ひとりの生活習慣や発言、行動等の内容を細かに観察・記録し、子どもの実態に合わせて教育できるよう、職員間だけではなく、家庭とも連携して取り組んだ。また多くの研修にも取り組み、日々保育の研鑽に励んだ。

#### (2) 自己点検と評価

評価項目に沿った自己点検、自己評価を積極的に行い、日々、月、学期、行事毎に個人、また学年で点検評価を行った。教職員間の情報の共有を密にし、課題について協議し合い適切に対応し、教育の質を相互に高めた。また「誠実で信頼される園に」を建学の精神に掲げ、教職員の資質向上のための取り組みに力を入れてきた。

保護者からのアンケートによる学校評価を行う中で、行事や活動内容を改善しさらによりよい保育ができるよう努めた。また保護者のニーズの把握に努め、要望や意見に適切な対応を図った。

#### (3) 学習支援の推進

教員一人ひとりにSurface(タブレット型PC)を貸与し、園児たちの日々の生活の様子を撮影し、メールマガジンで保護者の様子を見ていただいたり、個人の様子を記録として細かく記入したりすることが出来た。効率的に作業できるようになり、園児に関わる時間を増やすことができた。

#### (4) 保育のレベルの向上

漢字絵本・百玉算盤・絵画指導・音楽教育・表現活動・運動遊び等、園の教育活動を十分に理解し、自分たちの資質向上のための研修を園内、また園外で行った。

## 2. 園児支援事業

### (1) 生活の支援

家庭環境、生活環境を把握し、園児一人ひとりの理解を深めるだけでなく保護者の理解にも繋げていった。児童相談所等の関わりのある園児についても連携をとり、園医や臨床心理士に指導も受けた。

### (2) 保護者と協力関係の構築

一人1台ずつ貸与されたタブレット型PCを使って毎日の登園・降園方法や変更、課外教室、預かり保育等の保護者連絡を随時確認ができる状況となり、導入しているアプリがより活性化した。またこのアプリを利用した「園だより」「ほけんだより」等、確実に連絡事項を発信できるようになった。園での生活や、行事などの写真を見ていただくことで、園の教育活動と園での子どもの様子をより分かりやすく伝えることが出来るようになった。

母の会が行事に積極的に参加していただいたことでより園の理解に繋がった。

## 3. 教育環境の整備事業

- (1) 空気清浄機 2台購入
- (2) 電子ピアノ 2台購入
- (3) 音楽会用のタンブリン 16台購入
- (4) CDラジオカセットレコーダー 4台購入
- (5) デジタル身長計 1台購入
- (6) 紙芝居 2セット購入

## 4. 社会連携・貢献事業

将来の幼児教育・保育に携わる人材育成につながる中学校、高校の職業体験やボランティアを受け入れていった。

未就園児親子教室の「ひよこ教室」を月2～3回開催し、地域の子育て交流を図っている。感染症により今までは定員を設け予約していただいていたが、定員を無くし自由に参加できるようにした。

預かり保育の「どんぐり教室」では、子育て支援の一環として仕事をしている方、友だちと遊ぶ場として保育終了後に実施して喜ばれている。6年度からは人数を拡大し、より多くの方に利用していただいている。

## 5. 園児募集・入試に係る事業

### (1) 園児募集活動の強化

感染状況により中止していた未就園児対象の「みんなの広場」を以前と同じように地域の子どもたちに園を開放し、幼稚園体験をするイベントを開催することが出来た。各室にそれぞれの遊びのコーナーも設け、様々な体験をし、皆で出し物を見てもらいながら楽しく過ごしてもらうことが出来た。

幼稚園見学説明会、個人見学会を行い、保護者の皆さんの質問、アンケート等を通じて最近の保護者の抱える悩みや要望などを知ることができた。また、保護者にとっては享栄幼稚園を知っ

ていただくとともに多くの理解を得る場になった。

## 6. 進路支援事業

各小学校で行われる幼・保・小連絡会議に参加し、進学予定の園児たちの生活の様子や友だち関係等を伝え、小学校の受け入れ準備の参考にしていただいた。

11月に年長園児全員の汐路小学校見学は、小学生が用意してくれたクイズやゲームを一緒に行い、校内を案内してもらい、楽しく過ごしていった。進学に意欲をもつことができた。

## 7. その他

例年は近くの小劇場で3部制にして行っていた音楽会を、70周年記念行事として盛大に行い、全学年の発表を全ての保護者の方に見ていただくことが出来た。保護者からも高評価をいただくことができた。

感染症対策でここ数年入園式、卒園式を享栄高校の体育館をお借りして行ってきたが、6年度は入園式を園で行った。年長組の夏休みに行く県外宿泊保育「阿智村林間宿泊保育」を宿泊で行うことができた。感染症対策で変更になっていた行事の内容を以前と同じように行うことが出来るようになり、楽しい思い出と貴重な体験をさせてあげることができた。また、子育て支援のひよこ教室も人数制限なく行うことが出来るようになった。

とても残念だったのが1月の「雪あそび」。例年のない大寒波が襲来し、高速道路が通行規制されたことにより、前日に実施を見送った。

年長児の小学校見学も、久しぶりに行うことができ小学校体験をして進学に意欲を持つことが出来た。

以上

### Ⅲ. 決算の概要

<令和6年度 決算>

<令和5年度決算> (単位：千円)

科目	法人	享栄高校	栄徳高校	享栄幼稚園	合計	合計	前年比
学生生徒等納付金		638,014	567,389	84,450	1,289,853	1,350,859	△ 61,006
手数料		32,409	34,250	1,060	67,719	72,480	△ 4,761
寄付金		3,570	8,329	115	12,014	5,816	6,198
経常費等補助金		765,960	542,924	48,250	1,357,134	1,399,688	△ 42,554
付随事業収入				7,394	7,394	7,403	△ 9
雑収入	240	62,103	71,029	4,888	138,261	133,112	5,149
教育活動収入計	240	1,502,056	1,223,920	146,156	2,872,373	2,969,357	△ 96,984
人件費	92,287	1,186,432	919,737	110,221	2,308,678	2,333,449	△ 24,771
教育研究経費		261,909	173,157	44,549	479,614	484,621	△ 5,007
管理経費	36,918	59,129	80,731	5,252	182,030	177,090	4,940
徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0
教育活動支出計	129,205	1,507,470	1,173,625	160,022	2,970,322	2,995,160	△ 24,838
教育活動収支差額	△ 128,965	△ 5,414	50,295	△ 13,866	△ 97,950	△ 25,803	△ 72,146
受取利息・配当金	458	194	217	36	905	4,144	△ 3,239
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	458	194	217	36	905	4,144	△ 3,239
借入金等利息	0	0	2,403	2,188	4,591	4,923	△ 332
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	2,403	2,188	4,591	4,923	△ 332
教育活動外収支差額	458	194	△ 2,186	△ 2,152	△ 3,686	△ 779	△ 2,907
経常収支差額	△ 128,507	△ 5,220	48,110	△ 16,018	△ 101,636	△ 26,583	△ 75,051
資産売却差額	0	11	30		41	78,610	△ 78,569
その他特別収入	0	2,735	798	751	4,284	3,213	1,071
特別収入計	0	2,746	828	751	4,325	81,823	△ 77,498
資産処分差額		364			364	883	△ 519
その他特別支出	0	0	0	0	0	0	0
特別支出計	0	364	0	0	364	883	△ 519
特別収支差額	0	2,382	828	751	3,961	80,940	△ 76,979
基本金組入前当年度収支差額	△ 128,507	△ 2,838	48,938	△ 15,267	△ 97,673	54,358	△ 152,031
基本金組入額合計	△ 3,213	△ 21,374	△ 56,315	△ 30,741	△ 111,643	△ 42,349	△ 69,294
当年度収支差額	△ 131,720	△ 24,211	△ 7,377	△ 46,008	△ 209,317	12,009	△ 221,326

(単位：%)

	目標値	法人	享栄高校	栄徳高校	享栄幼稚園	合計	昨年	前年比
事業活動収支差額比率	△8.0%以上	—	△ 0.2	4.0	△ 10.4	△ 3.4	1.8	△ 5.2
人件費比率	81.0%未満	—	79.0	75.1	75.4	80.3	78.5	1.8
人件費依存率	178.0%未満	—	186.0	162.1	130.5	179.0	172.7	6.3
管理経費比率	8.0%未満	—	3.9	6.6	3.6	6.3	6.0	0.3
基本金組入後収支比率	115.0%未満	—	101.6	100.6	139.6	107.6	99.6	8.0

令和6年度は、学生生徒等納付金が前年比61,006千円減少し補助金収入も同42,554千円減少した。これは享栄高校で他私学及び通信制との競合が激化し生徒数が減少、栄徳高校においても前年比入学者数が減少したことが要因である。

教育活動収入は、同96,984千円減少し、28億72,373千円となった。

一方、支出は享栄高校の教員が退職もあり8名減少したため24,110千円減少し、学園全体の人件費が同24,771千円減少した。

教育研究経費で5,007千円減少、管理経費は栄徳高校のスクールバス運行の委託料値上げ8,020千円があり、学園全体では4,940千円増加した。

教育活動支出は同24,838千円減少し、29億70,322千円となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は同1億52,031千円減少の97,673千円支出超過となり、1億11,643千円をに組入れ、当年度収支差額は、同2億21,325千円減少の2億9,316千円支出超過の計上となりました。

## 1. 資金収支計算書

### 収入の部 [ ( ) 内は前期比 ]

(単位：千円)

#### 学生生徒等納付金

12億89,853千円 (△61,005千円)

(単位：名)

	入学者数			在籍者数		
	R5	R6	増減	R5	R6	増減
享栄高校	541	474	△ 67	1,614	1,498	△ 116
栄徳高校	504	424	△ 80	1,315	1,314	△ 1

#### 手数料収入

67,718千円 (△4,762千円)

入学検定手数料収入、証明書手数料収入、取扱手数料収入である。

#### 寄付金収入

11,976千円 (6,949千円)

一般寄付金2,100千円

特別寄付金 9,875千円

栄徳高校PTAからの校用車購入寄附3,089千円

#### 補助金収入

13億59,366千円

(△42,665千円)

享栄高等学校7億68,192千円 (△32,933千円)

栄徳学校5億42,923千円 (△11,843千円)

享栄幼稚園48,249千円 (2,111千円) が

内訳である。

愛知県の経常費補助金は10億61,311千円 (△16,309千円)

である。

#### 受取利息・配当金収入

905千円

(△3,238千円)

有価証券の配当金、預金利息である。

#### その他の収入

7億31,931千円

(△1億42,465千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,287,104	1,289,853	△ 2,749
手数料収入	74,404	67,718	6,686
寄付金収入	13,942	11,976	1,966
補助金収入	1,355,085	1,359,366	△ 4,281
資産売却収入	10,030	10,041	△ 11
付随事業・収益事業収入	6,920	7,394	△ 474
受取利息・配当金収入	460	905	△ 445
雑収入	131,947	138,601	△ 6,655
前受金収入	206,277	224,427	△ 18,150
その他収入	740,672	731,931	8,741
資金収入調整勘定	△ 354,197	△ 345,477	△ 8,720
前年度繰越支払資金	629,151	629,151	0
収入の部合計	4,101,795	4,125,887	△ 24,092

#### 資産売却収入

10,041千円

(△99,959千円)

有価証券(債券)の早期償還に伴う

収入である。

#### 付随事業・収益事業収入

7,394千円

(△9千円)

享栄幼稚園のスクールバス収入

教材収入、預り保育収入である。

#### 雑収入

1億38,601千円

(5,922千円)

退職金財団からの交付金収入

1億12,735千円が主なものである。

#### 前受金収入

2億24,427千円

(14,929千円)

受験生からの入学金が主なもので

あり、14,790千円増加した。

#### 資金収入調整勘定

△3億45,477千円

(33,801千円)

前期末未収入金収入1億34,133千円計上、前期は引当特定資産の洗替を行ったため、取崩収入、繰入支出共大きく増減した。

期末未収入金や前期末前受金が主なものである。

## 支出の部

### 人件費支出

23億31,812千円 (△25,520千円)

教員人件費で19,052千円減少し、職員人件費で15,217千円減少した。

退職金が5,059千円増加した。

### 教育研究経費支出

2億77,470千円 (△1,896千円)

教育研究活動に必要な経費で、光熱水費、消耗品費、修繕費等の支出である。

### 管理経費支出

1億65,840千円 (5,177千円)

法人業務及び管理運営に必要な経費で、賃借料委託報酬料等の支出が主なものである。

(単位：千円)

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	2,338,794	2,331,812	6,982
教育研究経費支出	286,693	277,470	9,223
管理経費支出	181,150	165,840	15,310
借入金等利息支出	4,591	4,590	1
借入金等返済支出	65,794	65,794	0
施設関係支出	13,482	13,461	21
設備関係支出	27,071	25,992	1,079
資産運用支出	528,820	521,837	6,983
その他の支出	209,197	219,831	△ 10,634
小計	3,655,592	3,626,627	28,965
予備費	9,000	0	9,000
資金支出調整勘定	△ 191,972	△ 196,194	4,222
翌年度繰越支払資金	629,537	695,453	△ 65,916
支出の部合計	4,101,795	4,125,887	△ 24,092

### 借入金等利息支出

4,590千円  
(△333千円)

栄徳高校土地取得、造成工事、享栄幼稚園隣地購入、享栄幼稚園園舎改築に伴う借入金に係る支払利息である。

### 借入金等返済支出

65,794千円  
(14,904千円)

日本私立学校振興・共済事業団、金融機関からの借入金に係る返済支出である。栄徳高校の合宿所建設に係る返済16,780千円の返済が開始した。

### 施設関係支出

13,461千円  
(△225千円)

享栄高校のプレーカー購入費(2,904千円) 栄徳高校の体育館改修工事の設計料(8,085千円)が建設仮勘定として計上されている。

### 設備関係支出

25,992千円  
(△1,924千円)

ソフトウェア購入支出(校務支援システム)購入費19,018千円が主なものである。

### 資産運用支出

5億21,837千円  
(△4億4,961千円)

将来に備えた各種引当特定資産繰入が主なものである。

### その他の支出

2億19,831千円  
(84,281千円)

前期末の未払金支出や前払金支出が主なものである。

### 資金支出調整勘定

△1億96,194千円  
(82千円)

期末未払金や前期末前払金である。

## 2. 事業活動収支計算書

### 教育活動収支

#### 寄付金

12,014千円(6,198千円)

現物寄付115千円(享栄幼稚園母の会)

#### 人件費

23億8,678千円(△24,770千円)

資金支出には計上されない退職給与引当金繰入額7,038千円が、計上されている。

#### 教育研究経費

4億79,614千円(△5,007千円)

資金収支には計上されない減価償却費2億2,010千円が計上されている。

#### 管理経費

1億82,030千円(4,940千円)

資金収支には計上されない減価償却費16,186千円が計上されている。

(単位:千円)

事業活動収入			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,287,104	1,289,853	△ 2,749
手数料	74,404	67,718	6,686
寄付金	11,412	12,014	△ 602
経常費等補助金	1,355,085	1,357,133	△ 2,048
付随事業収入	6,920	7,394	△ 474
雑収入	131,947	138,261	△ 6,314
教育活動収入 計	2,866,871	2,872,373	△ 5,502
事業活動支出			
人件費	2,318,241	2,308,678	9,563
教育研究経費	489,919	479,614	10,305
管理経費	197,300	182,030	15,270
徴収不能額等	400	0	400
教育活動支出 計	3,005,860	2,970,322	35,538
教育活動収支差額	△ 138,989	△ 97,950	△ 41,039

### 教育活動収支差額

△97,950千円(△72,146千円)

享栄高校・栄徳高校の入学者が減少し、在籍生徒数が減少したことが大きな要因である。

享栄幼稚園は、教員を補充し、教員人件費が10,636千円増加した。

(単位:千円)

教育活動収支差額			
	令和6年度	令和5年度	差異
享栄高校	△5,413	51,278	△56,691
栄徳高校	50,295	68,935	△ 18,640
享栄幼稚園	△13,866	△3,294	△10,572

### 教育活動外収支

(単位:千円)

事業活動収入			
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	460	905	△ 445
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入 計	460	905	△ 445
事業活動支出			
借入金等利息	4,591	4,590	1
その他の教育活動外支出	0	0	0

教育活動外支出 計	4,591	4,590	1
教育活動外収支差額	△ 4,131	△ 3,685	△ 446
経常収支差額	△ 143,120	△ 101,635	△ 41,485

## 特別収支

### 資産売却差額

41千円 (△78,569千円)

前年度は債券売却差額78,610千円が計上されていた

### その他の特別収入

4,284千円 (1,071千円)

現物寄付1,634千円

(栄徳高校PTA懸垂幕798千円など)

名古屋市施設設備補助金2,232千円

### 資産処分差額

364千円 (△518千円)

### 基本金組入前当年度収支差額

△ 97,673千円 (△1億52,030千円)

### 当年度収支差額

△2億 9,317千円 (△2億21,326千円)

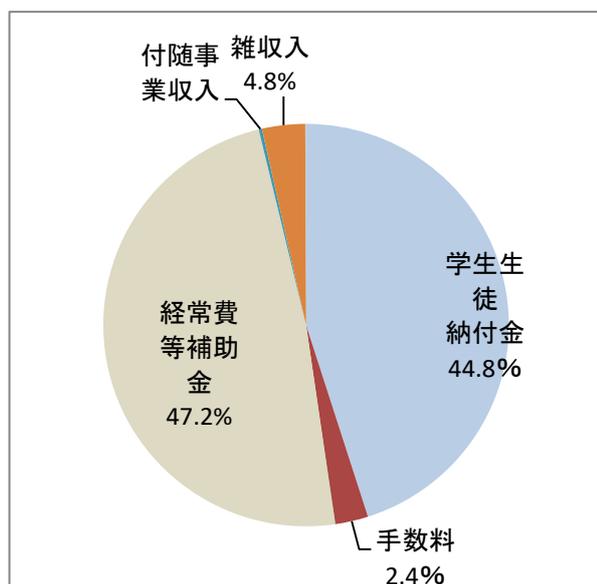
(単位：千円)

事業活動収入			
科目	予算	決算	差異
資産売却差額	30	41	△ 11
その他の特別収入	3,887	4,284	△ 397
特別収入 計	3,917	4,325	△ 408
事業活動支出			
資産処分差額	0	364	△ 364
その他の特別支出	0	0	0
特別支出 計	0	364	△ 364
特別収支差額	3,917	3,961	△ 44
予備費	9,000		9,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 146,993	△ 97,673	△ 49,320
基本金組入額合計	△ 99,421	△ 111,643	12,222
当年度収支差額	△ 246,414	△ 209,317	△ 37,097
前年度繰越収支差額	△ 3,391,569	△ 3,391,569	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 3,637,983	△ 3,600,885	△ 37,098

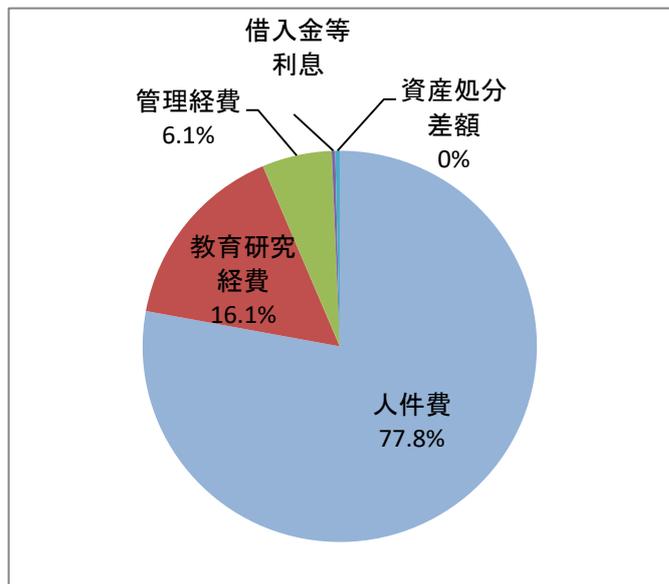
(参考)

事業活動収入 計	2,871,248	2,877,603	△ 6,355
事業活動支出 計	3,018,241	2,975,276	42,965

事業活動収入の構成比



事業活動支出の構成比



### 3. 貸借対照表

#### 資産の部

(単位：千円)

##### 固定資産

63億85,500千円 (△2億56,676千円)  
有形固定資産として、土地、建物、構築物、備品  
図書、車両等があり、その他の固定資産として  
有価証券、保証金等がある。

##### 流動資産

8億48,601千円 (58,776千円)  
主なものとして、現金預金、未収入金、貯蔵品等  
がある。現金預金は、前年比66,302千円増加  
したが、45,744千円は引当特定資産取崩によるもの  
である。

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	差異
固定資産	6,385,500	6,642,177	△ 256,676
有形固定資産	5,390,045	5,578,109	△188,064
内 土地	2,280,371	2,278,852	1,519
内 建物	2,574,203	2,716,239	△ 142,036
内 構築物	332,310	363,352	△ 31,042
特定資産	808,651	877,530	△ 68,879
その他の固定資産	186,804	186,538	266
流動資産	848,601	789,825	58,776
内 現金預金	695,453	629,151	66,302
資産の部合計	7,234,102	7,432,002	△ 197,900

#### 負債及び純資産の部

(単位：千円)

##### 固定負債

6億41,746千円 (△99,286千円)  
長期借入金、退職給与引当金、長期未払金  
がある。

##### 流動負債

7億47,412千円 (△941千円)  
短期借入金、未払金、前受金、預り金がある。  
前受金2億24,427千円が計上されている。

負債及び純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	差異
負債の部			
固定負債	641,746	741,032	△ 99,286
流動負債	747,412	748,353	△ 941
負債の部 合計	1,389,158	1,489,385	△ 100,227
純資産の部			
基本金	9,445,829	9,334,186	111,643
第1号基本金	9,236,829	9,125,186	111,643
第4号基本金	209,000	209,000	0
翌年度繰越収支差額	△ 3,600,885	△ 3,391,569	△ 209,316
純資産の部 合計	5,844,944	5,942,617	△ 97,673
負債及び純資産の部 合計	7,234,102	7,432,002	12,787

#### 4. 有価証券の状況

##### ①総括表

(単位：円)

	当年度（令和7年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	29,437,148	30,254,845	817,697
（うち満期保有目的の債券）	（ 0 ）	（ 0 ）	（ 0 ）
（うち満期保有目的の債券）	（ 0 ）	（ 0 ）	（ 0 ）
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	40,000,000	37,815,000	△ 2,185,000
（うち満期保有目的の債券）	（ 0 ）	（ 0 ）	（ 0 ）
合 計	69,437,148	68,069,845	△ 1,367,303
（うち満期保有目的の債券）	（ 0 ）	（ 0 ）	（ 0 ）
時価のない有価証券	0		
有 価 証 券 合 計	69,437,148		

##### ②明細表

(単位：円)

種 類	当年度（令和7年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	20,000,000	19,602,400	△ 397,600
株 式	0	0	0
投資信託	49,437,148	48,467,445	△ 969,703
貸付信託	0	0	0
合 計	69,437,148	68,069,845	△ 1,367,303
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	69,437,148		

## 5. 財産目録

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
1. 基本財産	5,389,542	未収入金	135,975
土地	2,276,075	引当特定資産	808,651
建物	2,566,267	長期貸付金	4,320
構築物	332,310	保証金	8,120
教育研究用機器備品	105,951	預託金	425
その他の機器備品	7,353	現金・預金	695,453
図書	75,512	貯蔵品	18
車両	3,356	前払金	2,641
建設仮勘定	10,989	立替金	14,513
電話加入権	670	資産総額	7,234,102
ソフトウェア	11,059	借入金	641,504
2. 運用財産	1,844,560	退職給与引当金	52,431
土地	4,296	未払金	214,908
建物	7,936	前受金	224,427
借地権	81,684	預り金	255,887
施設利用権	11,089	負債総額	1,389,158
有価証券	69,437	正味財産	5,844,944

## 6. 借入金明細表

### 借入金明細表

令和 6年 4月 1日 から  
令和 7年 3月31日 まで

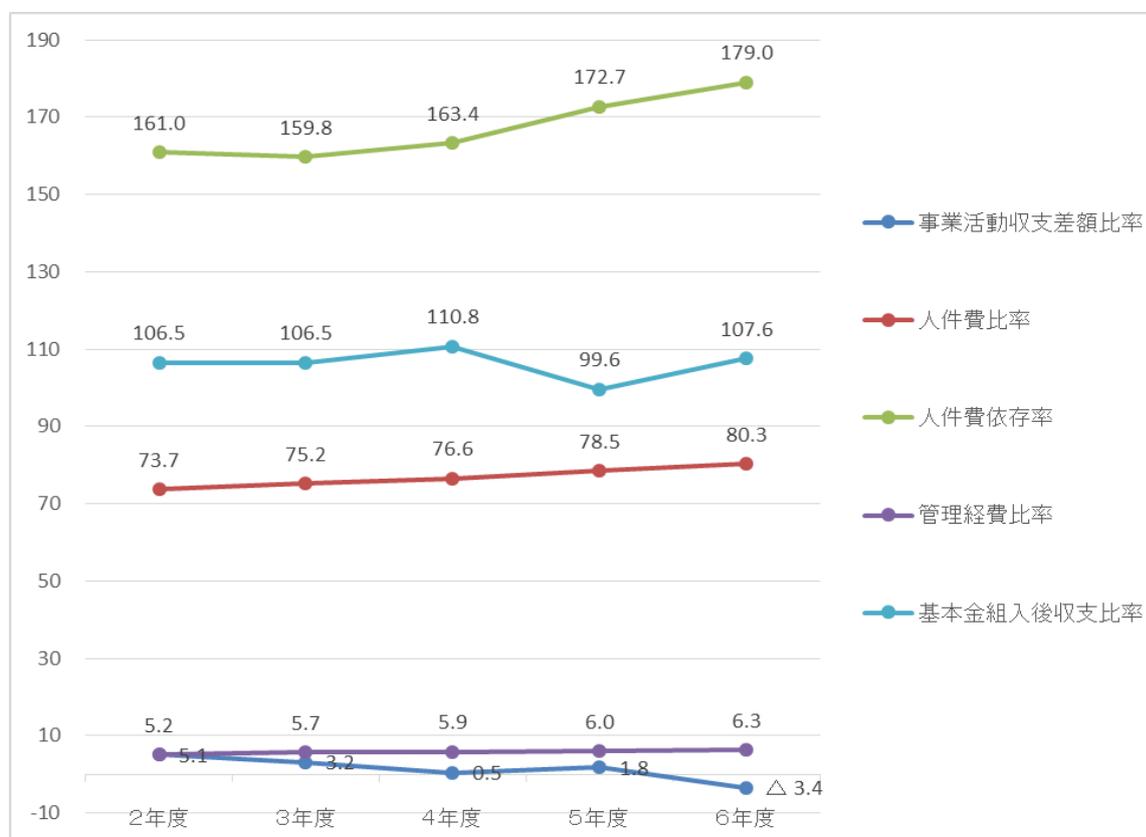
(単位 円)

	借入先	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	利率	返済期限	摘要
長期借入金	公的機関 日本私立学校振興・共済	583,220,000	0 ※	41,660,000	541,560,000	0.70 %	令和23年 9月15日	使途：享栄幼稚園園舎建替 栄徳高等学校校舎宿所新築 担保：土地、建物
	小計	583,220,000	0 ※	41,660,000	541,560,000			
	市中金融機関 三菱UFJ銀行	30,572,000	0 ※	11,508,000	19,064,000	0.50 ～ 0.52 %	令和10年 3月31日	使途：栄徳高等学校土地購入 駐車場造成
	百五銀行	27,712,000	0 ※	11,544,000	16,168,000	0.49 ～ 0.50 %	令和10年 3月31日	使途：栄徳高等学校土地購入 駐車場造成
	小計	58,284,000	0 ※	23,052,000	35,232,000			
	その他	0	0	0	0			
計	641,504,000	0 ※	64,712,000	576,792,000				
短期借入金	金融公的機関 小計	0	0	0	0	※ ※		
	金融市中機関 小計	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	返済期限が1年以内の長期借入金	65,794,000	※ 64,712,000	65,794,000	64,712,000			
	計	65,794,000	※ 64,712,000	65,794,000	64,712,000			
合計	707,298,000	※ 64,712,000	※ 64,712,000	641,504,000				

## 7. 財務比率

(単位：%)

財務比率	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
事業活動収支差額比率	5.1	3.2	0.5	1.8	△ 3.4
人件費比率	73.7	75.2	76.6	78.5	80.3
人件費依存率	161.0	159.8	163.4	172.7	179.0
管理経費比率	5.2	5.7	5.9	6.0	6.3
基本金組入後収支比率	106.5	106.5	110.8	99.6	107.6



## 8. 次年度に向けて

### 1. 基本方針

- (1) 令和7年度は、中期（概ね5年以上）事業計画及び中期財務計画の「0年度」と位置づけ、基本計画の策定に着手する。
- (2) 他校との競合が激しくなる中、高校学校2校、幼稚園がそれぞれの魅力を高め、選ばれる学校・園として生徒・園児数の確保を行う。
- (3) 学園収入に見合った支出にするため、人件費をはじめとした経費の適正な配分を行い財務基盤の安定化を目指す。
- (4) 栄徳高校学校の環境整備については、公的補助金を最大限活用しながら生徒の安全安心を確保することを最優先に、快適な教育環境を確保すべく、計画を実行していく。

以上